

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1870200126		
法人名	有限会社 みつばちホーム		
事業所名	グループホームみつばち		
所在地	福井県敦賀市野坂20-1		
自己評価作成日	平成24年 2 月 1 日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	平成24年3月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で心穏やかな生活が過ごせるような環境作りに関心している。利用者の持っている能力を大切に、利用者の持っている可能性を最大限に追求することで、利用者が暮らしの主体となるホームを目指している。家庭的な雰囲気の中で、24時間専門スタッフが、常に見守り、安心できる生活を送れるように支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは敦賀市の野坂岳ふもとの緑多く四季折々の移ろいを肌で感じられる場所に立地している。「奉仕の心でつなぐ愛の手」を理念に掲げ、入居者一人ひとりの持つ能力を最大限に活かす介護に努めている。また、入所間もない入居者に対して職員全員で状態等の把握に努め情報を共有するなど、入居者が家庭的な雰囲気のなかで安全かつ穏やかに過ごせるよう配慮している。さらに、病院受診や個別の外出に家族と相談しながら柔軟に対応するほか、看護体制を充実させ退院直後の支援や看取りに取り組むなど今後の発展が期待できる事業所である。

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念「奉仕の心でつなぐ愛の手」	ホームの運営理念として「奉仕の心でつなぐ愛の手」を掲げ、入居者一人りひとりが持つ能力を最大限に活かして生活できるよう支援している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に頻回ではないが、地域の夏祭りや文化祭などに参加し交流を持っている。	事業所として自治会に加入し、入居者・職員とともに夏祭りや文化祭などの地域行事に参加しているが、ホームを移設したため以前に比べ地域との交流が少なくなっている。	広報誌やパンフレット配布など、地域住民に事業所の活動や方針の理解が深まるような取り組みを期待したい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会で、社会貢献などの参加ができるように話している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月毎に行う運営推進委員会では、利用者の状況、ホームの行事などの報告を行い、サービス向上につながるよう、参加者の意見等を参考に取り入れるように努めている。	区長、民生委員、家族、市介護保険課職員等の参加を得て、2か月毎に開催しており、活動報告を行うとともに出席者から質問、要望等を聞き運営に反映している。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	窓口担当者には随時、報告や相談、質問等は気軽に出来る関係である。	市の担当者とは、随時、報告、質問を行うなど情報交換に努め、気軽に相談出来る関係を築いている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は朝4時に開け、21時頃に施錠している。身体拘束はしていない。	玄関は朝4時より21時頃まで開錠しており、入居者が心穏やかに日々を過ごせるよう心がけている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等で学んだことは職員間で話し、ホーム内で虐待が発生しないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の中で一名該当者あり、制度の内容を説明した。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時には十分な説明を行っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が意見や希望を訴えた場合は、即実行するように努めている。	日ごろから入居者の様子等を観察するとともに面会時に家族から意見・要望・不満を聞くなど意向の把握に努め、意見要望等の実現に努めている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日ミーティングの時間を設けて意見交換をしている。反映できるものは反映している。	管理者は、毎日のミーティングや会議等で職員の意見・要望を聞く機会を設け、提案された意見を運営に反映するよう努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心を持てるように勉強会や研修会に参加を促しミーティングを重ね個人の意見を尊重し、出来る限り取り入れるようにしている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修を活用し、可能な限り参加している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流する機会を設けて、情報交換はしているが、勉強会までには至っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談から利用に至るまで期間が短く、信頼関係を築くことは困難である。入所されてから、信頼関係を築くよう努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	気軽に相談できるような関係を築けるよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の状態を見ながら、サービス向上に努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	24時間生活する中で、喜怒哀楽を共にし、学ぶことも多いが、認知症が進む中で、昔出来ていたことが出来なくなっている事が多く、一方的な介護で終わっている利用者もいる。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者が情緒不安定な場合は、家族のご協力を得て、共に本人を支えていく関係が出来ている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望であれば、関係が続くよう支援に努めている。	入居者の馴染みの場所や店を訪問したり、気軽に友人等が面会訪問できる環境づくりに配慮するなど馴染みの関係が継続できるように支援している	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立している利用者には、職員が中に入り自然に利用者の輪に入れるよう努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特別行っていないが、以前よりホームで亡くなった方や利用して亡くなった方の家族には、一年に一回程度尋ねている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当者が入所者と密接な関係を築き、本人の意向を把握し、定期的なカンファレンスを開催し、情報を職員間で共有化する。	入居者の日々の行動・言動や家族との情報交換等から本人の希望・意向の把握に努めるとともに定期的なカンファレンスを開催し、職員間で情報を共有している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族やケアマネからの聞き取りや、病院等からの情報提供などを利用している。特に家族からの情報提供には時間をかけている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所後1~2ヶ月は、状態や様子を職員全員が観察しその様子を家族と話し合い総合的に把握するようにしている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じて医師や家族を交えて介護計画に反映している。	入居者の日々の状態や本人および家族の要望を考慮した介護計画を作成している。また、月1回家族へ手紙で入居者の状態を報告しており、必要に応じて医師や家族を交えて介護計画を見直している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の生活記録のほかに、連絡帳を使い情報を共有して検討の機会を作っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診や個別の外出など、家族と相談しながら柔軟に対応している。看護体制を充実させ、退院直後からの支援や看取りにも取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のふれあいサロンに参加しており、定期的な舞踊、保育園児の訪問、そばうち等の交流がある。避難訓練は、消防署の方においしい協力してもらっている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院による週一回の往診を受けている。以前からのかかりつけ医の受診については、家族にお願いするか職員が代行する。その場合は家族に報告している。	かかりつけ医への受診は基本的に家族同行としているが、職員が代行することもあり、その際は受診結果を家族に報告している。また、協力医による週1回の往診もある。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	運営者が看護師であり、協力医院の担当看護師と連携を密にして、健康管理や医療活用の支援をしている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院内の地域連携室等と連携し、情報交換及び相談に努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に家族からの意見を確認して、職員間でミーティング時に方針を共有している。また、重度化した時にも再度家族を交えて方針を確認して同時に主治医と協議したうえで支援している。	契約時に家族の意向を確認し、ミーティング等で話し合っ方針を職員間で共有している。また、重度化した場合は、再度家族の意向を確認し、家族・主治医と対応を協議し支援している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時には自己診断することなく、管理者もしくは代表者に連絡し、指示を仰ぐようにしている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年2回実施しており、(消防署協力のもと)ミーティング時にも話し合っている。自警団の方々にも協力要請している。	消防署の協力のもと、年2回の避難訓練を実施しており、区長・民生委員・自警団等への協力を依頼している。	避難経路および場所の確保や避難マニュアルの作成、夜間想定した避難訓練の実施等が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人のプライバシーを損ねるような言葉かけはせず、スタッフ間で統一した声かけが出来るよう配慮している。	入居者個々に応じた声かけがなされており、職員が不適切な発言をした際は、その都度職員同士で注意しあっている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を訴えられる利用者にはそのように支援している。決定の出来ない利用者には、出来るだけ本人の思いが把握できるように努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れはあるが、決して強要はせず、その人その人のペースに合わせた行動支援を行っている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者に自分で服を選んでもらえるよう支援している。衣類の買い物及び理美容に関しても支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と共に買い物に行ったり、利用者の能力に合わせて食事の準備や後かたづけに関わっている。	食事の際は職員も同席し、入居者は入居者同士や職員との会話楽しんでいる。入居者は食事の準備・後方付け等出来る範囲で関わっている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量はチェックシートに記入している。本人の食事の格好を把握し、味付けにも工夫するなど配慮している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きや口腔洗浄に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツは基本的には使用しない事を職員全員が理解している。排泄シート等を活用して排泄量の管理及び時間を見て声かけ誘導を行っている。	排泄シート等を活用し入居者の排泄パターンを把握・共有しながら、さり気ない声かけや誘導が行われている。また、基本的にオムツは使用しない方針としている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日牛乳を摂取している。食事前にはりハビリ体操をしており、個別に散歩するなどしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴予定はあるが、利用者の希望や体調で臨機応変に対応している。希望の無い利用者も入浴表を確認して定期的に入浴してもらえよう支援している。	週2回の入浴としているが、入所者の意向・体調に応じ入浴時間の変更や清拭への変更など柔軟に対応している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の様子を見ながら目が覚めた時に排泄介助等を含めてペースを乱さないように配慮している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情により目的や副作用を確認し服薬管理に努め、症状観察を行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換に外へ行きたい利用者、のんびりが好きな利用者などその人その人に合わせて対応している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	季節の行事には、利用者の希望を取り入れて、皆が楽しめるよう支援している。	季節の行事への参加、買い物など入居者が希望する場所へ外出している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人の希望どおりにしているか、管理が難しい場合は家族と相談し対応している。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>希望があれば電話使用の支援をしている。家族や知人等への手紙、はがき(年賀状)等も、支援している。</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ホールの天井が高く開放感があり、テーブルの上には花や季節の小物を飾り、季節を肌で感じられるように配慮している。</p>	<p>リビングの天井は高く開放感が感じられ、入居者が作成した壁飾りや小物が随所に飾られるなど穏やかに過ごせる空間となっている。</p>	<p>「愛」棟のくつろぎ空間に置かれている腰掛の高さと安定性に不安が感じられるため対応の検討が望まれる。</p>
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>テーブルの席は一応決まっているが、自由としている。ホール内には畳コーナーもあり、自由に使用している。</p>		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室への持ち込みは特に制限していない。希望の品物を持ち込んでもらっている。</p>	<p>居室への持ち込み制限はなく入居者の馴染みの物が持ち込める。大きなクローゼットが設置されており、快適に過ごせる空間となっている。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>ユニットそれぞれ建物の構造が違い、利用者に向けた生活の仕方やり八ビリの出来るような環境作りをしている。</p>		